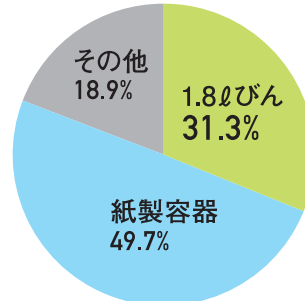


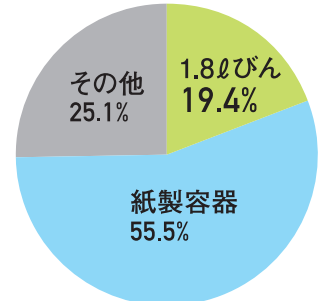
容器別の出荷量割合は紙パックが多い

2014年（平成26年）度に全国の酒造メーカーを対象に実施した調査によると、日本酒、本格焼酎ともに紙パックが多く、1.8ℓびんでの出荷量は日本酒で31.3%、本格焼酎で19.4%でした。その他の容器として、日本酒では、四合びん（720ml）、300mlびん、樽、缶などが18.9%、本格焼酎では900mlびん、ペットボトルなどが25.1%となっています。

〔容器別出荷量（日本酒）〕



〔容器別出荷量（本格焼酎）〕



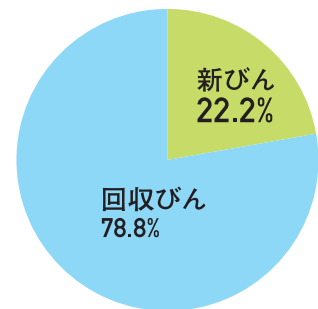
小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

市場に流通している

1.8ℓびんのうち約8割は回収びん

1.8ℓびんで出荷された日本酒・本格焼酎のうち、回収びんでの出荷割合は78.8%、新びんでの出荷割合は22.2%でした。回収びんを75%以上～100%使っている酒造メーカーは7割以上（592社）ありましたが、新びんでの出荷割合の方が多い酒造メーカーは2割近く（154社）ありました。5年前と比較すると、回収びんが減ったと回答した酒造メーカーが46.9%ありました。地域別では、九州地域の酒造メーカー（180社）の回収びんでの出荷割合が65.6%とやや低くなっています。

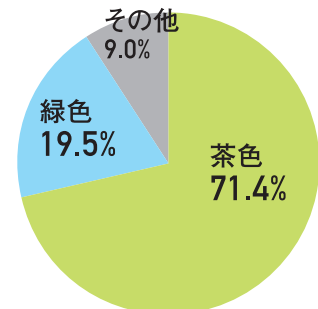
〔新びん回収びんの出荷割合〕



茶と緑で約9割を占める

1.8ℓびんの色は茶色と緑のびんがほとんどでした。これ以外の色のびんは需要が少ないために、回収してもほとんど再使用できません。特に高級酒に使われているフロスト加工びん（表面を曇りガラスに加工したびん）はキズが目立ちやすく、再使用には不向きです。酒造メーカーには、リユースを意識した容器の選択が望まれます。

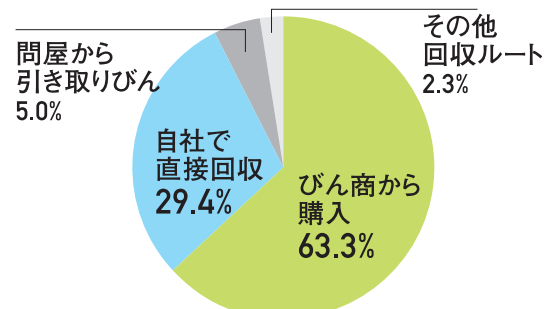
〔1.8ℓびんの色別出荷割合〕



びん商から購入が6割、自社回収が3割

酒造メーカーが回収びんを入手するルートは、びん商からが63.3%でしたが、自社で回収しているところも29.4%ありました。1.8ℓびんの回収率向上のためには、酒造メーカー自身の役割も大きいといえます。

〔回収ルートの割合〕



⁸ 日本酒造組合中央会「平成26年度1.8ℓびんの再利用率向上策の調査研究」